ようこそ校長室へ！
No. 12
令和５年６月２日
発行 ： 貝塚 敦

に にこにこ笑顔で い いつもみんなで つ 紡ぎ繋げる心で に 日本一をめざすのだ

地震が来ないと断言できる自信はない

1964 年、昭和 39 年は私の生まれた年です。

この 1964 年は、日本人にとって、さらには特に新潟県民にとって、特別印象に残る、エポック的な年です。

日本での初のオリンピックの祭典、いわゆる１回目の東京オリンピックが開催されました。東海道新幹線が開通し、夢の超特急と言われた『ひかり』が登場しました。新潟国民体育大会が実施されたのもこの年です。世の中は、いわゆる高度経済成長真っただ中、日本がイケイケドンドンの時代であり、その中でも特に大きなイベントや出来事があった年だと言えます。

しかし、そんな明るい未来に向かうような出来事ばかりだったかというと、そうではありません。新潟地震が起きたのもこの年なのです。

1964 年 6 月 16 日 13 時過ぎに、粟島南方沖約 40km を震源としたマグニチュード 7.5 規模の地震が発生し、新潟市の石油コンビナートの火災は 12 日間も続き、万代橋をはじめとする主要な橋や道路のあちこちに激しい亀裂が入って損壊するなど、新潟県を中心に甚大な被害をもたらしました。それほどの地震でありながら、死者がわずか 26 名だったのが奇跡だと言われました。

その後、2011 年の東日本大震災。この未曽有の震災も、中学生のみんなはまだ生まれた頃のことで記憶にないかもしれませんが、日本国民の大部分にとっては、忘れ得ぬ近年最大の悲劇だと言えるでしょう。

地震発生の 3 月 11 日は、新潟県はちょうどう公立高校の合格発表日でした。私は巻高校の合格発表に出向いた際にかつてない強い揺れを感じ、学校に戻ってテレビをつけて目に飛び込んできた光景は、まるで映画のワンシーンと錯覚するほど、言葉では表せない恐怖、不安、暗澹たる気持ちが押し寄せてきた感覚を今でも忘れることはありません。

すぐさま、茨城の実家に電話を入れましたが全く通じません。何度も何度も発信してようやく次兄とつながりましたが、彼の「ウワー」という絶叫とともに音信不通となりました。（後で、その時、食器棚が倒れてきて驚いて大声をあげたが、特に人身被害があったわけではないとわかり安堵しましたが。）

東日本大震災ばかりではなく、あるいは地震や津波のみならず、様々な惨事や大事件には、当事者はもちろんのこと、人それぞれの、悲しさ、つらさ、やるせなさがあり、自分だけしか知らない数多くのドラマや人生模様があると思います。

学校や地域にも、実際に東日本大震災によって転居してきた家庭もいますし、もしかしたら、身内や親戚や知り合いに、実際に命を落したり被害にあったりした方がたくさんいるかもしれません。また、今なおそれらの震災の影響で心身ともに苦難の中にいる方も大勢いるでしょう。
二度とこんな悲劇を繰り返したくない。それは、すべての人の願いであると思っています。

しかし、しかしです。日本は地震大国です。有史以来の歴史を振り返れば、新潟地震、東日本大震災レベルの地震や津波は、大なり小なり、何度も繰り返し繰り返し起きているわけです。
鎌倉大地震(1293 年・死者約 23,000 人)、明応地震(1498 年・死者約 26,000 人)、元禄地震(1703 年・死者約 6,700 人)、八重山地震(1771 年・死者約 12,000 人、安政江戸地震（1855 年・死者約 11,000 人)、これらはほんの一握りで、おびただしい地震の連続です。まさに、日本の歴史は地震の歴史と言っても過言ではないのです。しかし、これらが歴史の教科書で大きく扱われることはありません。応仁の乱や関ヶ原の戦いや第二次世界大戦は知っていても、そしてそれらの戦禍と同様、数多くの命が失われているのにもかかわらずです。また、もしかしたら、戦争や戦乱同様に、そういった震災が起きなければ、人類や日本の歴史は変わっていたかもしれないのです。
つまり、悲しいかな、天災は避けて通れない自然現象であり、我々が負っている果てしない宿命です。特に地震は、いつ起きてどこで起きるかわからない。必ずやってくるし、なくなることはあり得ません。

東日本大震災で「釜石の軌跡」と言われ、約 3,000 人の子どもたちの迅速な対応をもたらした「防災教育プログラム」の生みの親である群馬大学の片田教授は、「ちゃんと自分で自分の命を守れる子どもを育てる必要がある」と訴え、次の３原則を強調しています。
① 想定にとらわれるな（あえて「ハザードマップ」を鵜呑みにするな)
② 最善を尽くせ(より安全安心に向かって、ベストな選択をあきらめるな)
③ 率先避難者たれ(ためらうな。もし君が避難すれば他の人もついていく)

私は、学校で防災教育や避難訓練をする意義は２つあると思います。
一つは、実際に災害等に直面した際に、少なくとも「最悪のパニック」に陥らないためです。高校受験本番に向けて、当日計画している交通機関を利用して実際にその高校へ行ってみたり、学校を下見することと同じことです。
もう一つは、これまでの大きな震災を風化させることなく、そのやるせなさと教訓を、自分事として繰り返し繰り返し受け止めるためです。
そういう観点から、今後の防災学習や避難訓にも、ある意味、机上での授業以上に真剣に取り組んでほしいものです。
自分の身を自分でしっかり守る。それはあなた自身の最大の責務です。そして、あなたが命を落したり心身が大きく傷つくことがあったとしたら、どん底の悲嘆にくれる人が大勢いることを決して忘れないでもらいたいのです。